

報告者名・所属	水上象吾 佛教大学総合研究所 研究員・佛教大学社会学部
概要 (会名、開催地または開催形態、開催日、主催者等)	佛教大学総合研究所共同研究 常設研究「南丹市の地域社会と佛教大学の地域連携活動に関する研究」第1回 Zoom 報告会 Zoom 開催 2021年2月10日
URL	https://www.bukkyo-u.ac.jp/labo/activity/project/kondo.html

美山町における学生の学習内容 —「公共政策学フィールドワーク実習」 の授業を通じて—



発表者:

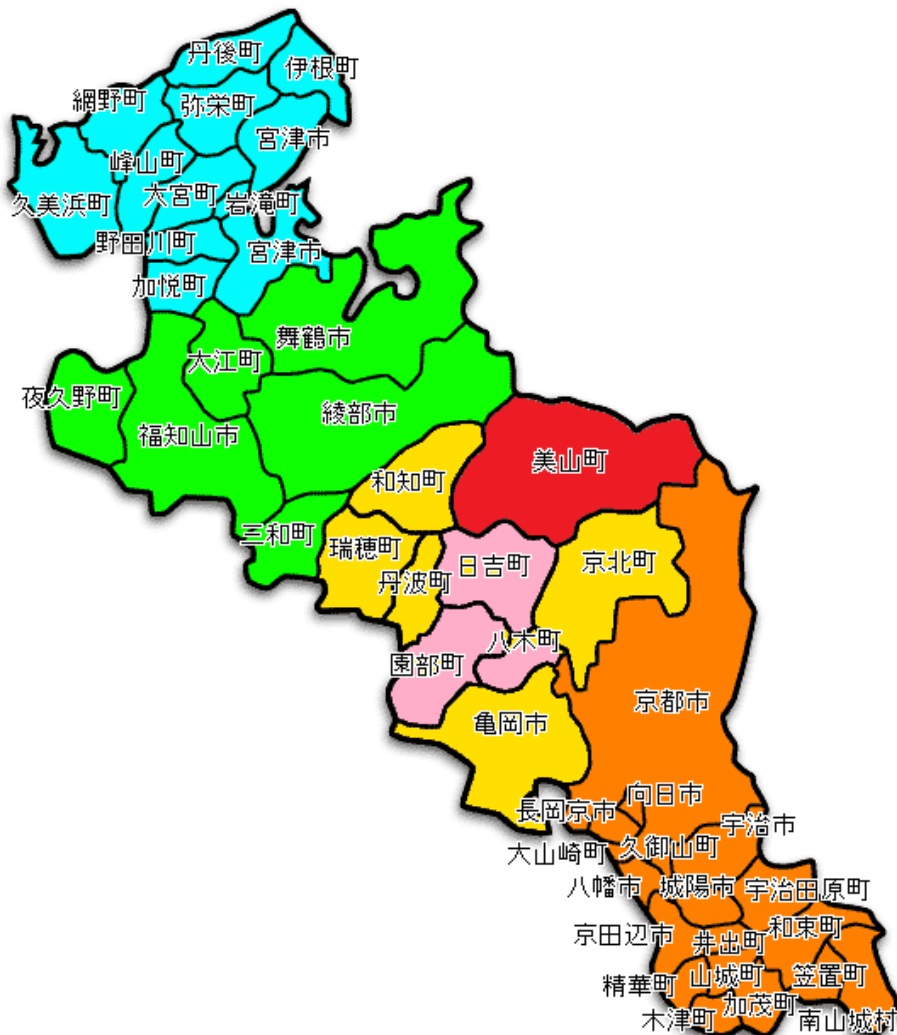
佛教大学 社会学部公共政策学科 水上象吾

1. 目的

公共政策学科の科目「公共政策学フィールドワーク実習」における、学生による成果物から、さまざまな困難を抱える地域社会の課題を明らかにし、実習での連携活動や学生教育のあり方を考える。

2. 美山町

- ・2006年、市町村合併。
美山町、園部町、八木町、
日吉町→南丹市
- ・美山町の人口:3841人(2018年)
- ・美山町の高齢化:
65歳以上割合46.21%、
70歳以上割合36.71%(2018年)



3. 公共政策学科のフィールドワーク

3-1 学習の流れ

● フィールドワークの流れ



事前学習

現地について情報収集し、仮説を立てるなど現地調査の計画を立てます。



現地調査

現地に赴き、住民へのヒアリングや体験をととして調査します。



事後分析

調査から得た発見などをグループで検討しながら、課題を分析します。

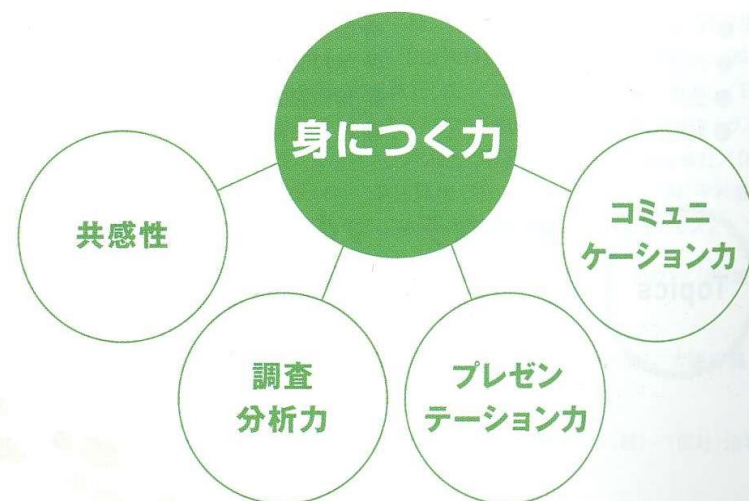


プレゼンテーション

分析結果を発表。自らの考えを人に伝えるトレーニングにもなります。

課題を見つけ 解決する力を身につける

公共政策学科の特色であるフィールドワークは多様な力を養成します。体験をもとに課題を見出す調査力や分析力、他者と協働するコミュニケーション力、また、調査結果を的確に伝えるプレゼンテーション力などです。そして、これらの力は社会で求められる課題解決力を形成するものです。



3. 公共政策学科のフィールドワーク

3-2 公共政策学科のフィールドワークの特徴

① 系統的で長期的な取り組み

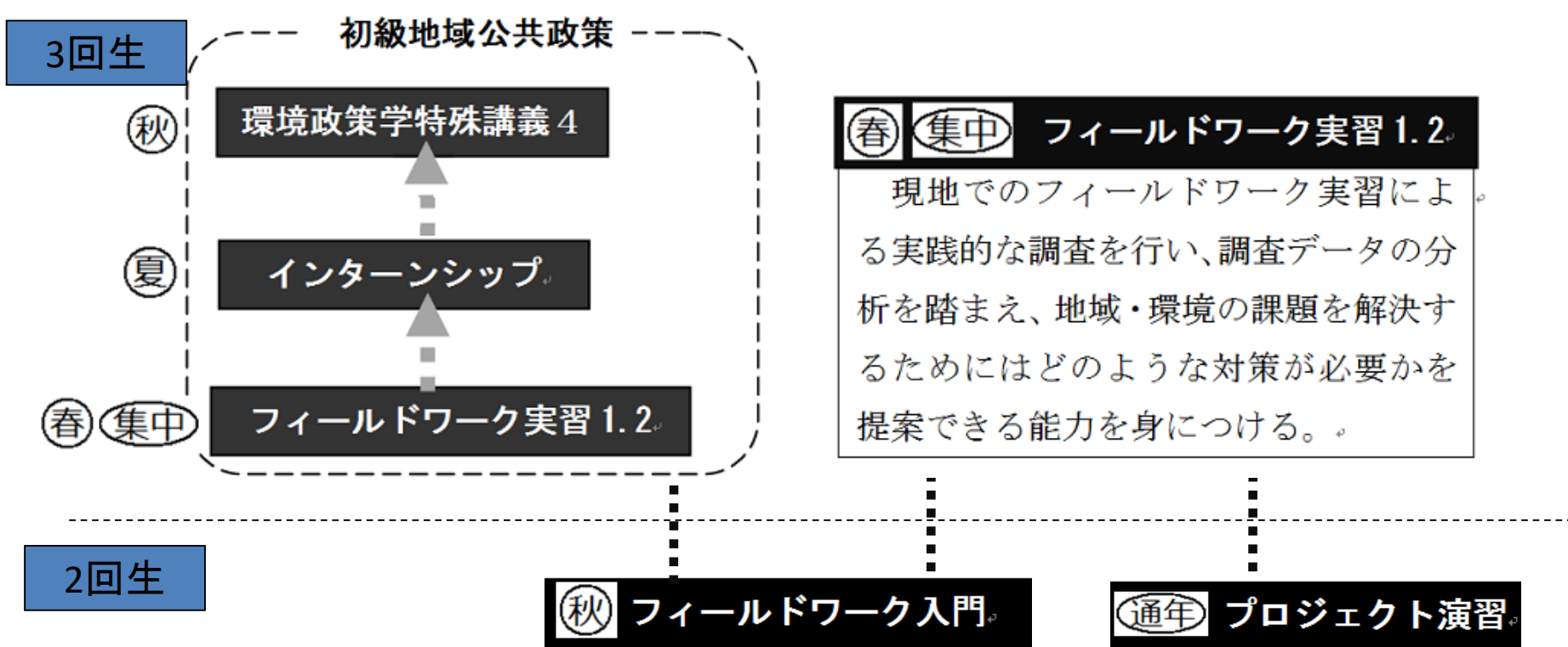
- ・連携協定 → 調査の成果を地元に戻す

② フィールドワークの多彩なメニュー

- ・自分に合ったかたちのフィールドワーク・スタイルを自由に選択できる多彩なプログラム。
- ・フィールドワークを組み込むゼミが多い。

③ 「京都」という特徴ある地域に根ざした調査・研究

- ・先進的な環境への取り組み
- ・伝統ある地域社会



3. 公共政策学科のフィールドワーク

3-3 コミュニティキャンパス



「コミュニティキャンパス美山」

美しい自然がある南丹市は、京都府のほぼ中央に位置する中山間地域です。「かやぶきの里」で知られる美山町に拠点施設となる「美山荘」を設け、そこで実習授業や地域調査研究、地域行事への参加、農業体験、モデルフォレスト運動などの活動を行っています。



「コミュニティキャンパス北野」

学問の神様として有名な北野天満宮の南側に位置する北野商店街(京都市上京区)。約80店舗が立ち並ぶなかに拠点施設「ゆいま〜る」を設け、学生たちによるチャレンジショップの企画・運営、各種イベント、展示会の開催などを展開し、地域連携事業を進めています。

3. 公共政策学科のフィールドワーク

3-4 プレゼンテーションの準備と発表会への参加



合同発表会、美山報告会、都市政策研究交流大会、GPM資格発表会など

「公共政策学フィールドワーク実習1H」 のシラバス(2020年度)

■授業のテーマ

「地域」や「環境」を対象としたフィールドワークによる調査・研究

■授業の概要

まちづくりや地域活性化の取り組み、環境にかかわる問題などについて、実態を把握し解決策を検討する。

■授業の目的・ねらい

フィールドワーク実習により体験的な活動を通して地域社会の現状や課題を捉える。実践的な調査を行うための応用力を習得し、調査データの分析や観察結果を踏まえ、地域課題の解決に向けた提案能力を身につける。

■到達目標

現地でのフィールドワーク実習による調査結果を踏まえ、地域課題や環境問題を解決するためにはどのような対策が必要かを提案できる能力を身につけることを目標とする。

■学外にて現地調査を実施する。調査先次第では、補助費用の他に自己負担が必要な場合がある。

■毎回の授業テーマ・内容

- 第1回フィールドワークの意義
- 第2回地域・環境を捉える手法
- 第3回テーマ・実習計画の立案
- 第4回文献・資料の収集1
- 第5回文献・資料の収集2
- 第6回文献・資料からの課題発見
- 第7回調査項目や調査票の作成
- 第8回調査準備・調査依頼1
- 第9回調査準備・調査依頼2
- 第10回調査データの整理・分析1
- 第11回調査データの整理・分析2
- 第12回調査結果についての検討
- 第13回発表・報告資料の作成
- 第14回プレゼンテーションと討論1
- 第15回プレゼンテーションと討論2

■参考文献について

- ・白谷秀一他(2002)「新版 実践はじめての社会調査 ―テーマ選びから報告まで―」自治体研究社
- ・大谷・木下・後藤・小松・永野 編著(2005)「社会調査へのアプローチ 第2版」ミネルヴァ書房
- ・工藤・寺岡・宮垣 編(2010)「質的調査の方法」法律文化社

4. 調査方法

「公共政策学フィールドワーク実習」における、学生の発表スライド、および、レポートの内容から、テーマ内容、調査方法、学習形態を明らかにする。

対象とする発表スライド・レポート: 2006年度～2019年度

分析方法: 文章を分かち書きし、記号、句読点、助詞を削除し、キーワードを抽出。頻出キーワードや前後の文脈を整理。

発表スライド: 139、総処理文字数2005

レポート: 229、総処理文字数534818

キーワードの置換・統一:

例 「ヒアリング」(インタビュー、聞き取り調査)

「景観」(風景)

「高齢者」(お年寄り、老人) など

5. 分析結果

要素数

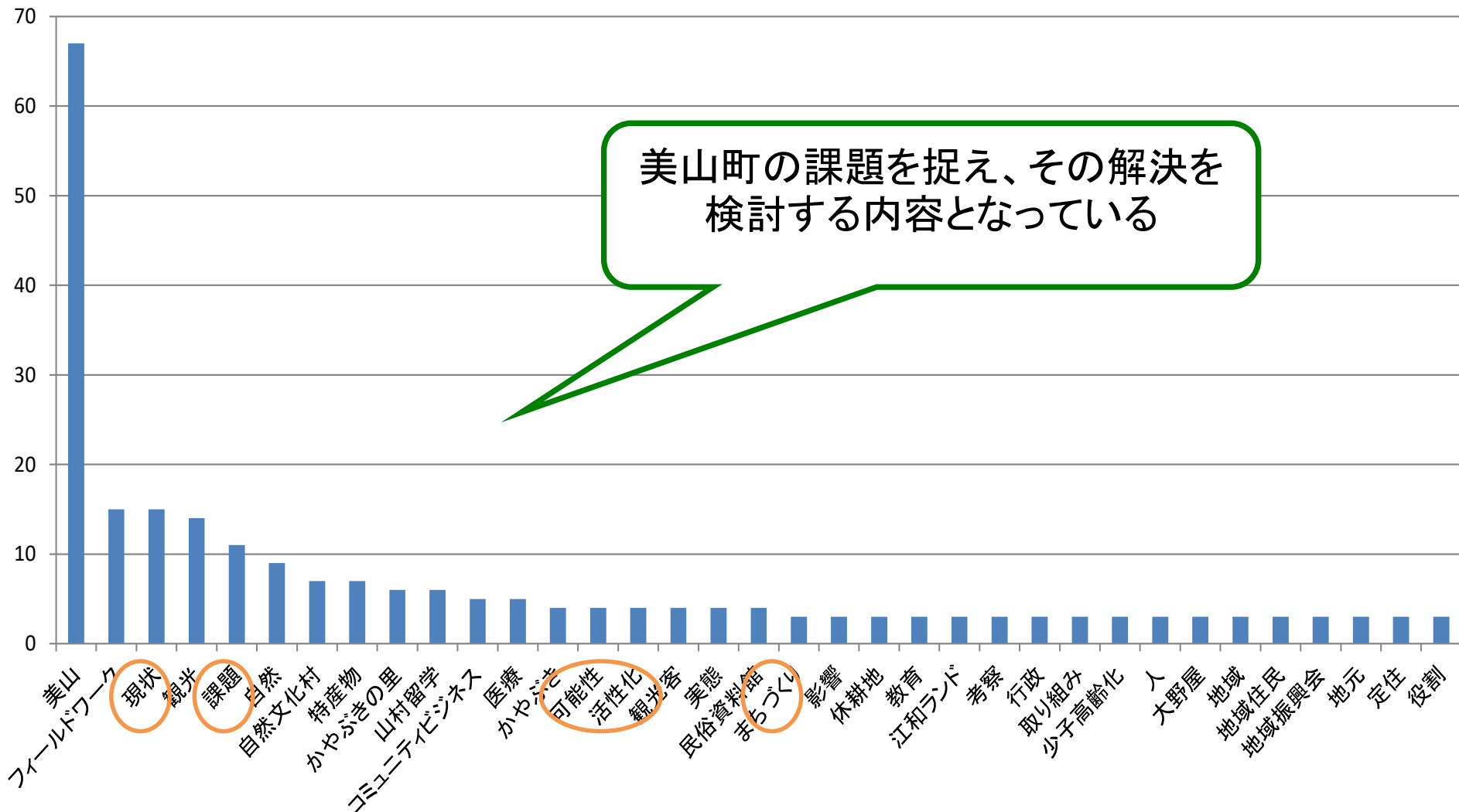


図 発表スライドのタイトル頻出キーワード

発表スライドのタイトル例:

- 「限界集落における医療の衰退～S集落、T集落の実例を通して～」 → 医療
- 「地域振興会の現状と取り組み～自治体と二つの地域振興会から～」 → 地域振興
- 「リピーターを増やすためには」 → 観光
- 「美山町における森林の意識調査」 → 自然
- 「美山牛乳について」 → 特産品

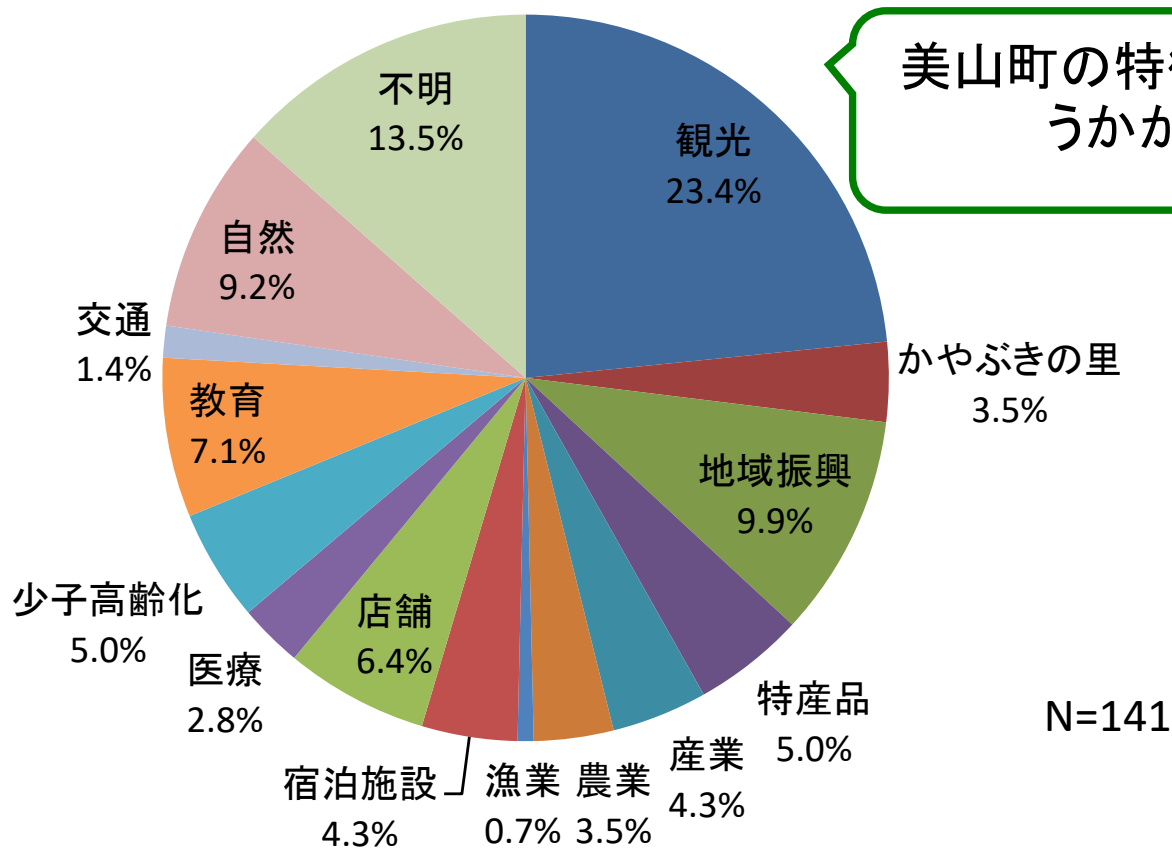


図 フィールドワーク実習のテーマ分類(発表スライドより)

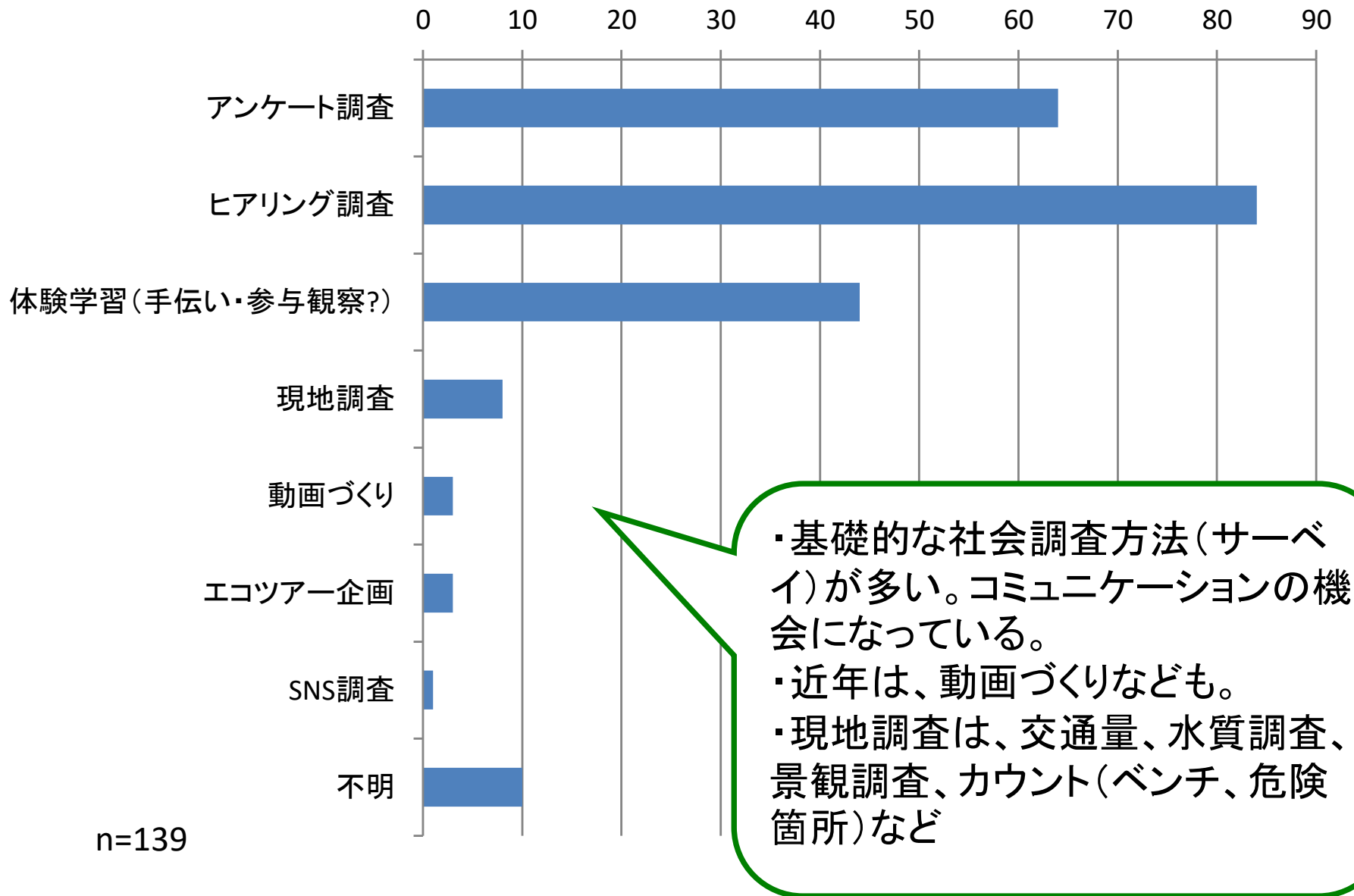


図 フィールドワーク実習での調査方法(発表スライドより)

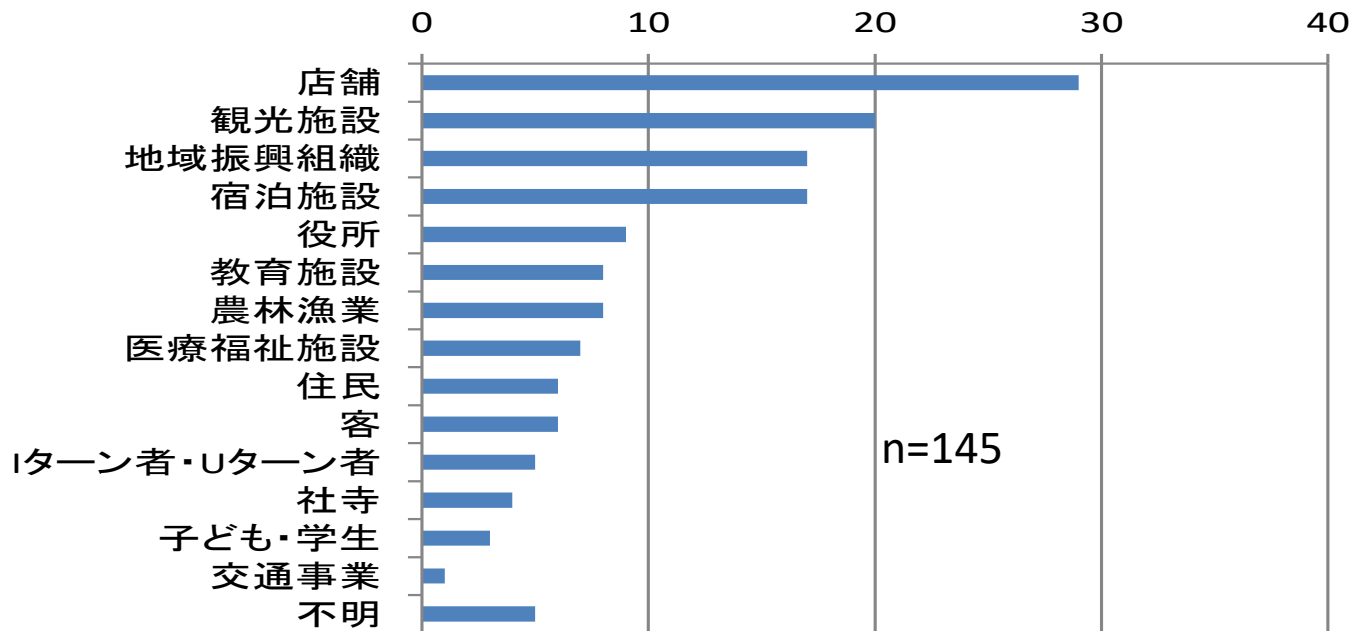


図 ヒアリングの対象 (発表スライドより)

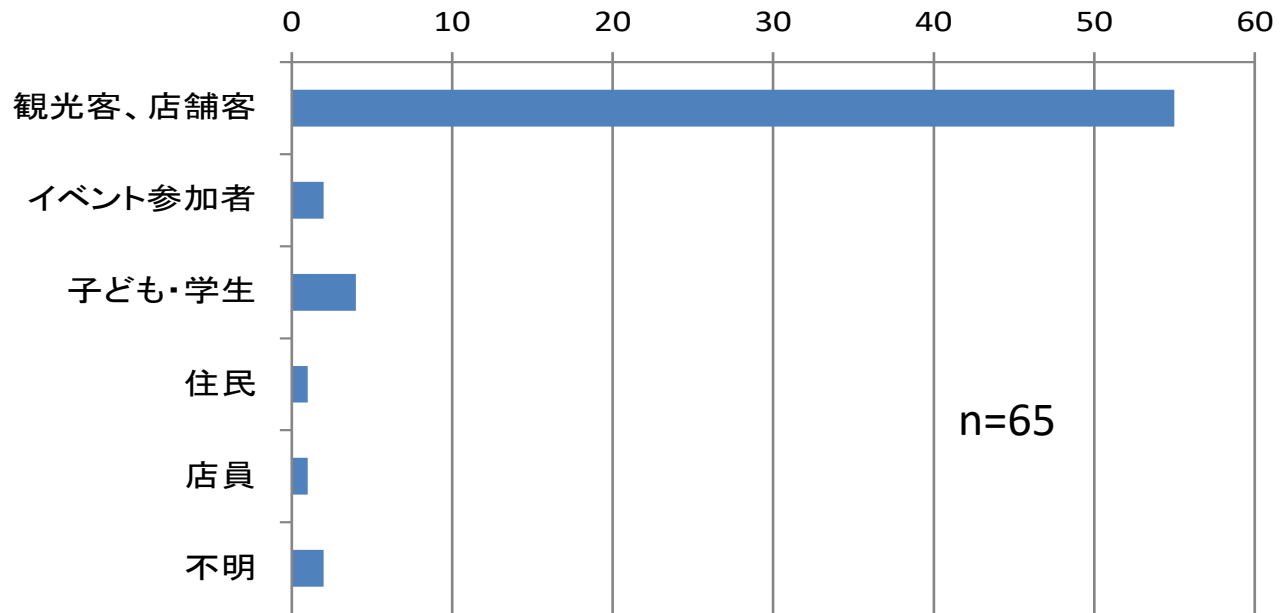


図 アンケート回答者 (発表スライドより)

表 レポートにおける頻出キーワード上位

キーワード	構成要素数	単純なキーワード数
美山	482	3893
人	296	3287
調査	317	847
京都	270	489
現在	266	306
私	259	603
問題	249	627
フィールドワーク	236	457
かやぶきの里	204	363
自然	202	777
アンケート	194	437
住民	155	566
必要	154	290
地域	144	996
高齢化	137	415
町	131	2976
実習	128	853
観光客	120	682
実際	112	223

n=229

「問題」、「必要」、「実際」→現状の課題を把握
 「調査」、「アンケート」→ 調べる
 「高齢化」→ 地域の課題

「問題」「課題」とは何を指すのか？

前後の文章より分類

地域の主要な課題・問題

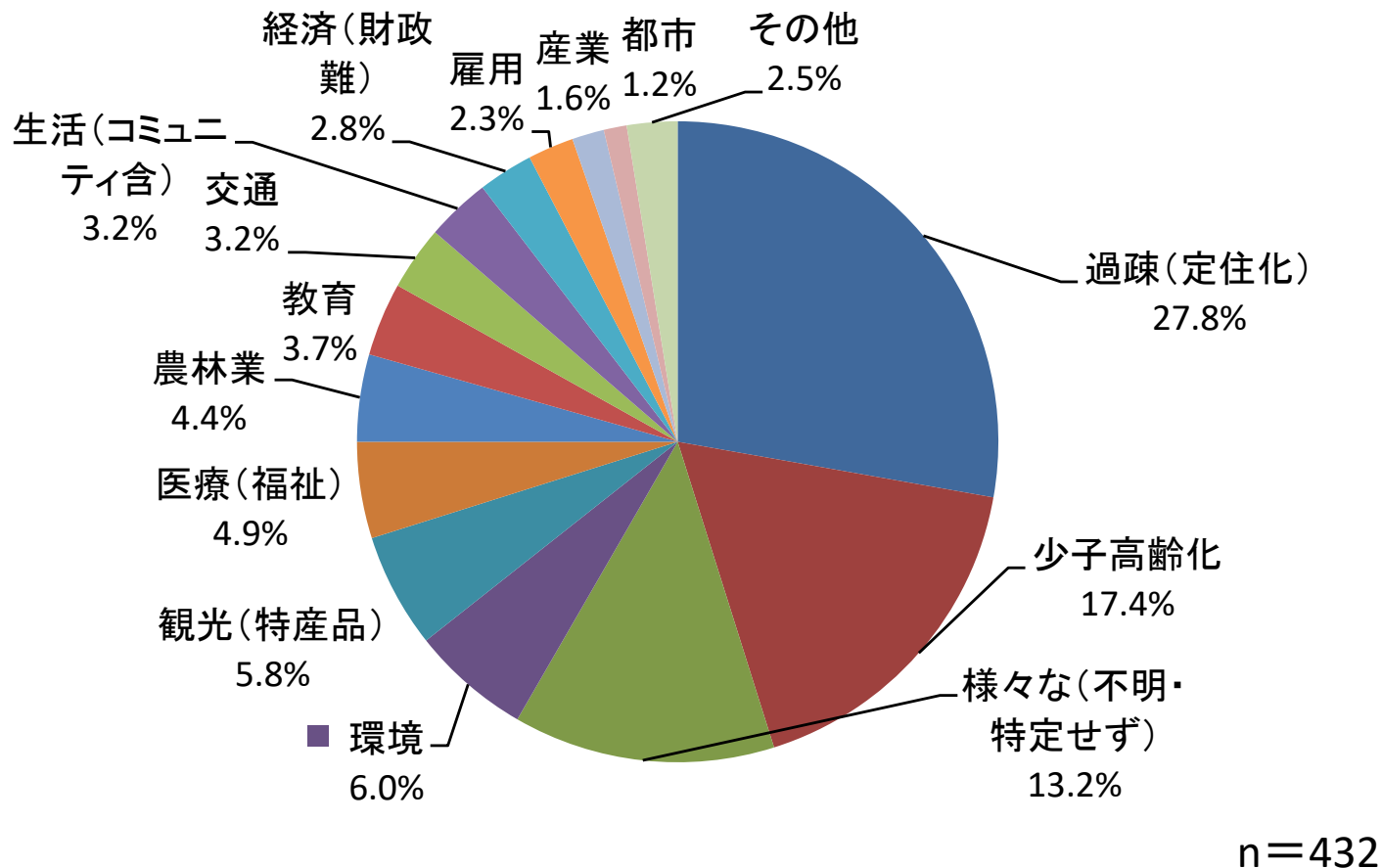


図 「問題」「課題」の指し示す内容分類(レポートより)

学生は「調査・研究」の流れや構成が理解できているか？
論文の主要な構成ワードが書かれているか

表 論文にかかわる主要構成ワードの出現数(レポートより)

キーワード	レポート数	ワード数
研究	34	131
背景	40	52
目的	111	222
仮説	62	137
調査	147	847
結果	132	350
考察	61	74
まとめ	58	81

(「検証」のワードがあったレポート数 8
課題解決の提案が書かれたものは少ない)

レポート数n=229

概ね、感想文ではなく客観的なレポートの書き方ができている。
調査→結果、の流れあり。「仮説検証型」ではなく「事実探求・整理型」も多い。

学生は何を学んだかと認識しているのか？

フィールドワークの気づきにつながるワードとして「学び」の把握。
レポートの「学ぶ」「学んだ」等のキーワードの前後の文章より分類

漠然としている。言葉にできない
経験を学ぶフィールドワーク？

その他：
大学の授業では学べないこと
自然環境の大切さ
森林に関わる人の生活
好きなことを貫き通す
農業の大変さ
山村留学

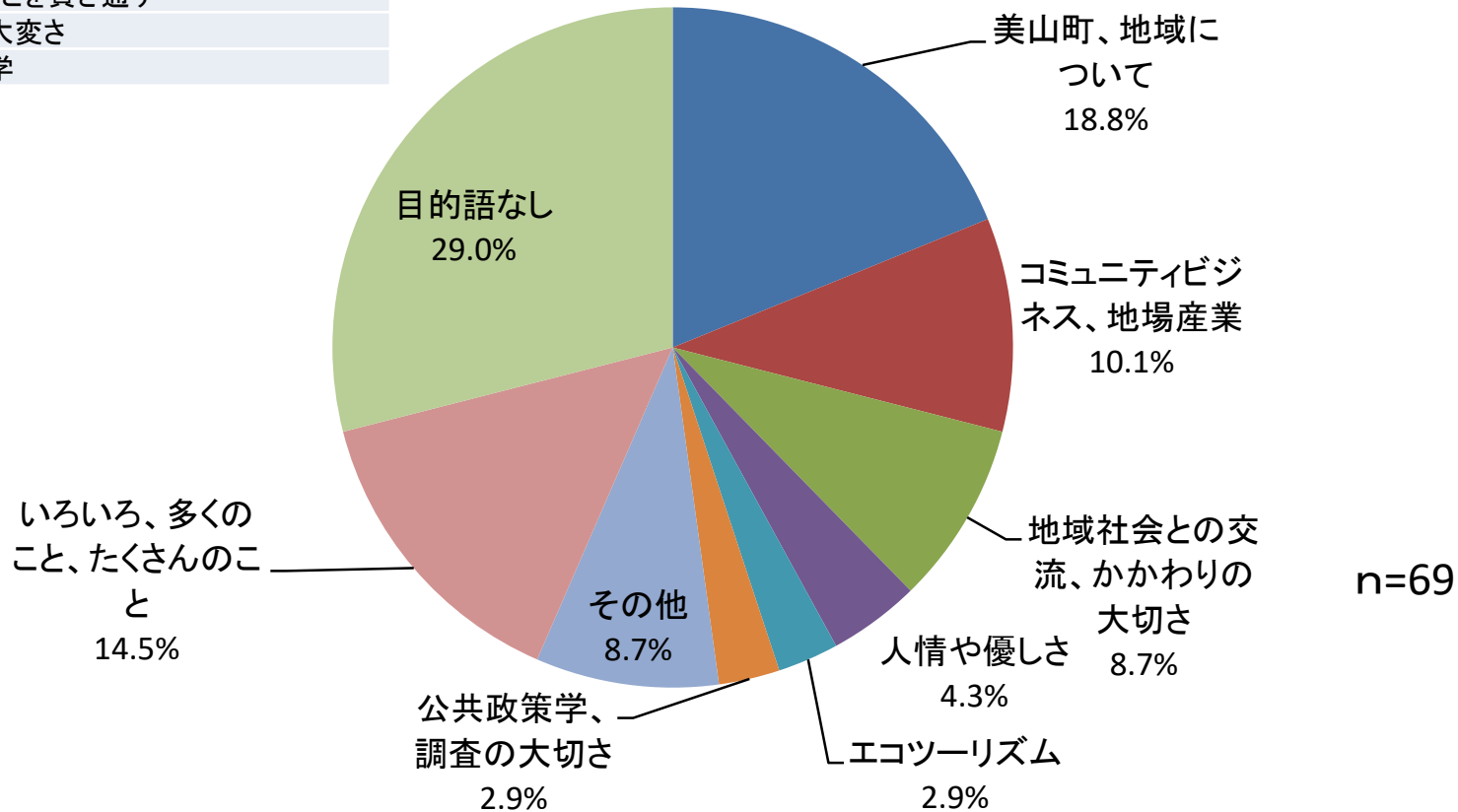


図 各学生の「学び」の認識対象(レポートより)

ちなみに：
学生のレポートは何文字くらい書いているか？

レポート数

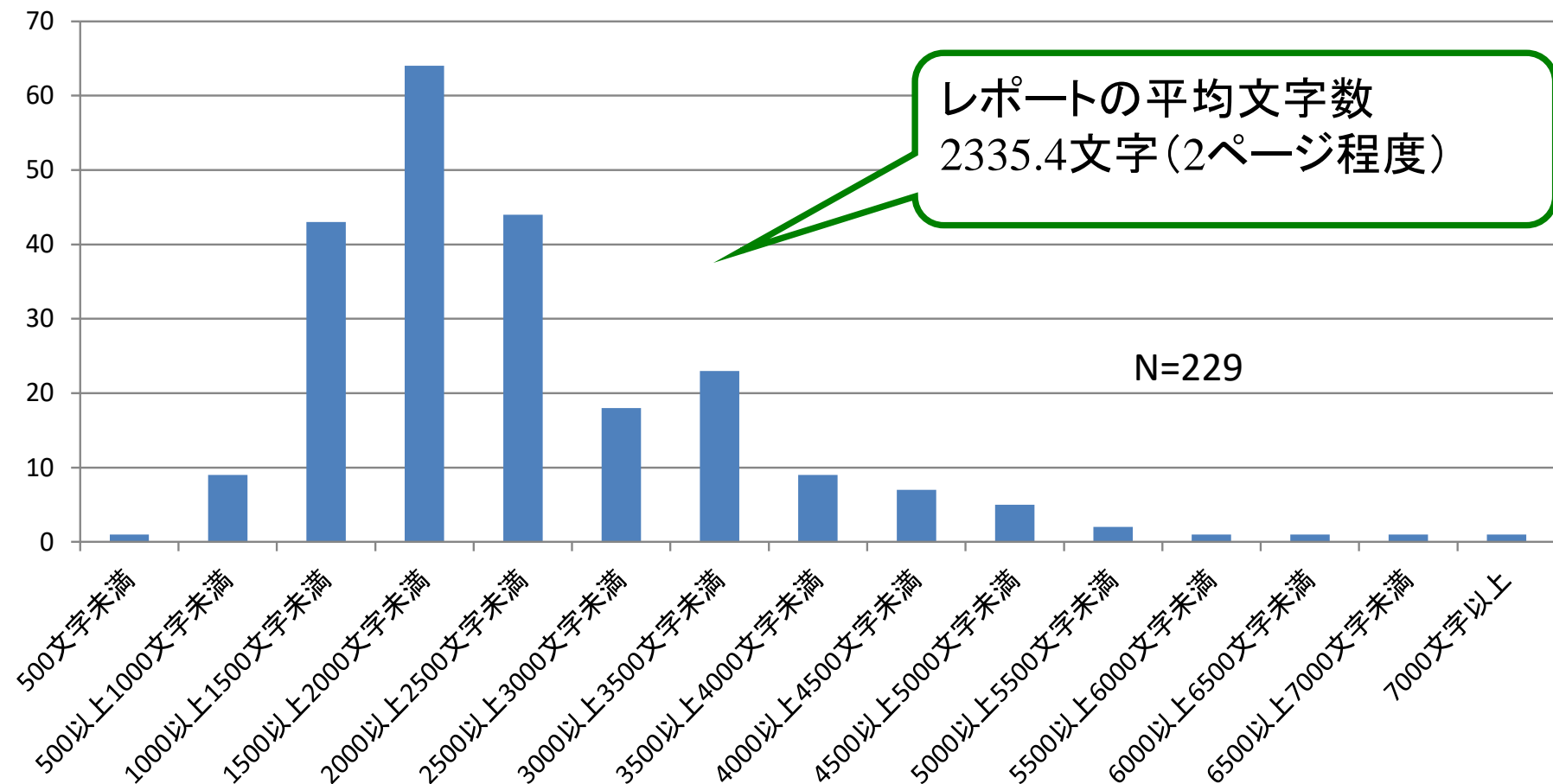


図 学生のレポートの文字数分布

5. まとめ

①テーマ内容

- ・美山町の地域の課題や学生のフィールドワークのテーマが整理された。少子高齢化に伴う人口減少が地域の課題の主要因になっていると考えられる。
- ・地域連携としては、テーマの掘り下げ、細分類化が必要。

②調査方法

- ・フィールドワークにおける調査方法や対象者が整理された。近年は、動画づくりやエコツアーなど多様化が進んだ。

③学生の学習について

- ・フィールドワークの「五感による経験を得る」体験を通じ、学習形態としては、社会調査の実践と結果報告という一連の流れを達成できていると考えられる。

（学習プロセス：体験・観察＞記録＞振り返る＞考える・整理する）

- ・アクティブラーニングに有効な学習形態となっている。グループ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション（他の人に教える）
- ・地域連携としては、課題解決への具体的な提案が必要。

以上